

●第十五回新選組書展の課題について

課題①「誠」

新選組の袖章や隊旗などに使われた、新選組を象徴する一文字。例年の課題です。

課題②「乍恐以書付奉願上候」

今回の「候文」の課題は、当時、身分が下の者から上の者に対して書状を出す際、冒頭に付けられていた定型文ともいうべき「乍恐以書付奉願上候」です。「恐れながら書付をもって願ひ上げ奉り候」と読み、「恐れ多いことですが、書状をもってお願いを申し上げたいと思ひます」といった意味です。

漢文のような語順で書かれているため、実際に読む文字の順番と書かれている文字の順番が異なっているのが特徴です。出す書状の種類によって「書付」の部分は変わることもあり、「願上」の部分も申請や依頼の場合は「願上」となりますが、報告などの場合は「申上」などと書かれます。

日野でも、名主の佐藤彦五郎らが代官所や奉行所など幕府の役所に書状を出す際によく使っている表現です。

課題③「沖田総司」

前々回第十三回新選組書展からはじまった人名の課題です。

「土方歳三」「近藤勇」に続く第三弾は、新選組一番隊組長などを歴任した沖田総司です。

沖田総司は、白河藩(現福島県白河市付近)を領地とした藩の江戸屋敷で生まれたといわれていますが、生年には天保十三年(一八四二年)説と天保十五(一八四四年)説があり、よく分かっています。両親は総司が幼い頃に亡くなり、井上源三郎の親戚の井上林太郎が総司の姉、みつと結婚し、婿養子となって沖田家を継ぎました。

一方総司は九歳で近藤周助の内弟子となったとされ、そこで剣術の才能を開花させました。元新選組の永倉新八は後年、総司の事を「師匠の近藤勇よりも強かった」と評しており、新選組最強の剣士の一人とされています。近藤勇、土方歳三、井上源三郎らとともに「浪士組」として上洛し、新選組の中心メンバーの一人として池田屋事件などで活躍しましたが、やがて肺結核にかかり、鳥羽・伏見の戦いの頃には病床にあつて戦いに参加できませんでした。

その後も病は悪化し、慶応四年(一八六八年)五月、近藤が刑死し土方らが戦い続ける中、江戸で亡くなりました。

新選組最強の剣士といわれながら子供好きな面があつたと伝わっており、若くして亡くなった悲劇性から新選組を題材にした映画や小説では重要な役どころになることが多く、特に小説『燃えよ剣』で準主役となって以降は高い人気を得るようになりました。

なお、名前はしばしば「おきたそうじ」と読まれますが、「沖田総二」と書かれた直筆の署名が残っているため、「おきたそうじ」という読み方が正しいことが分かっています。

〈課題②の実例〉

日野宿組合 関東御取締御出役方へ書上控帳(部分)

日野市所蔵



乍恐以書付奉願上候

江川太郎左衛門御代官所

武州多摩郡日野宿

組頭

貞右衛門

右野宿

右之もの義、高式拾巻石余所持、家内八人暮二て農業一派相嘗罷在候処、今度宿内窮民并用之ため農間質屋渡世仕度旨申出候二付、篤承り糺候所、故障之筋無御座、尤前々御法度之義ハ勿論、去ル辰年被仰渡御取締御趣意堅為相守り、証人無之無判物之質物等一切預り不申やう、急度取締方可仕候間、何卒格別之御慈悲、前書願之通新規質屋被仰付被下置候様、偏二奉願上候、以上

右日野宿

組頭

貞右衛門

宿役人惣代

年寄

平右衛門

名主

彦五郎

(文例について)

「日野宿組合 関東御取締御出役方へ書上控帳」とは日野の名主、佐藤彦五郎が現代でいう警察にあたる「関東取締出役」や代官所など幕府の役所に提出した申請書や報告書の写しをまとめたものです。

この部分の内容ですが、「日野宿の宿役人の一人が、困窮している者のために質屋を始めたいと申しており、審査したところ問題ありませんでした。幕府の法を固く守つて営業する所存ですので、何卒開業の許可をいただきたい」という「新規開業許可を願うための申請書」で、末尾には宿場の代表者として佐藤彦五郎も署名しています。

